

問1 日本の北方に位置する地域に古くから居住する先住民と、その文化に関する記述として最も適切なものを次の中から選びなさい。（2024年

山形県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 沖縄などの南西諸島を中心に独自の王国を築き、中国や東南アジアとの中継貿易によって繁栄した。 | 2. 平安時代以前に東北地方に住み、朝廷の支配拡大に対して抵抗を続けたことで「蝦夷（えみし）」と呼ばれた。 | 3. 北海道や千島列島などを主な居住範囲とし、シリエトク（知床）などの地名の由来にもなっている独自の言語を持つ。 | 4. 古代に朝鮮半島や中国大陸から移住し、日本列島に稲作や青銅器・鉄器などの進んだ技術を伝えた。 |
|--|---|--|--|

問2 縄文時代の遺跡である貝塚が、当時の社会や生活を研究する上で「考古学的資料」として極めて重要視されている理由として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 香川県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 食べた後の貝殻や骨、破損した土器などが堆積しているため、当時の人々の食生活や利用していた道具の種類を具体的に知ることができるから。 | 2. 巨大な石材を用いた石室や、死者とともに埋められた豪華な副葬品が発見されることで、当時の強力な権力者の存在を証明できるから。 | 3. 炭化した米や高床倉庫の跡が発見されることで、当時の人々が計画的に食料を生産・貯蔵していた社会構造を裏付けるから。 | 4. 集落の周囲を深い溝で囲むことで、稲作をめぐる集落間の争いがあったことや、防衛のための組織的な仕組みがあったことを示すから。 |
|--|--|---|--|

問3 縄文時代から弥生時代にかけての住居の構造について、地面を掘りくぼめる方法が取られた主な理由として、当時の生活環境から考えられる説明として最も適切なものはどれか。（2017年 茨城県公立入試 類似）

- | | | | |
|------------------------------------|---------------------------------|--|-------------------------------------|
| 1. 大規模な灌漑施設を作る際、土を掘り出す作業と同時に建築するため | 2. 床を地面から高く離すことで、収穫した穀物の湿気を防ぐため | 3. 仏教の影響を受け、寺院の建築様式にならって地面に直接柱を立てないようにするため | 4. 床を地面より低くすることで、室内の温度を一定に保ちやすくするため |
|------------------------------------|---------------------------------|--|-------------------------------------|

問4 縄文時代における人々の生活環境の変化と、道具の使用に関する説明として最も適切なものはどれですか。（2016年 富山県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 大陸から稲作が伝来したことで、収穫した穀物を大量に貯蔵するための薄くて赤褐色の土器が広く普及した。 | 2. 有力な首長が各地に出現し、集落を守るための環濠や、身分を象徴する豪華な副葬品としての土器が作られた。 | 3. 氷河期の影響で大型の獣を追う移動生活が中心となり、獲物を仕留めるために磨製石器が初めて登場した。 | 4. 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。 |
|--|---|---|---|

問5 縄文時代の人々が、遮光器土偶に見られるような独特な形をした土製品を多く製作した理由として、当時の社会背景から考えられる背景はどれですか。（2026年 千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 金属器がまだ普及しておらず、全ての調理器具や狩猟道具を土で作る必要があったため。 | 2. 大陸との交易において、日本の特産品として輸出するための芸術性を追求したため。 | 3. 強力な王が国を統一し、自分の権力を誇示するために同じ形の像を大量生産させたため。 | 4. 自然の脅威や病気に対して、超自然的な力による解決や生命力の向上を祈る必要があったため。 |
|---|---|---|--|

問6 山形県の西ノ前遺跡から出土した「縄文の女神」に代表される、縄文時代に作られた土製の人形について、その名称と当時の人々が込めた願いの組み合わせとして正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）

- | | | | |
|----------------------------|---------------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 1. 銅鐸 — 稲作の豊作を願う祭りの道具とするため | 2. 勾玉 — 魔除けや身分を示す装飾品とするため | 3. 土偶 — 豊かな収穫や安産を祈るため | 4. 埴輪 — 亡くなった王の権威を示し、供養するため |
|----------------------------|---------------------------|-----------------------|-----------------------------|

問7 縄文時代に作られた、人間をかたどった特徴的な土製品である「土偶」について、この道具が作られた主な目的として最も適切なものを次の中から選びなさい。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）

- | | | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 1. 豊かな収穫や安産などを祈るための、信仰の道具として作られた | 2. 古墳の周囲に並べ、死者の霊を慰めたり境界を示したりするために作られた | 3. 大陸から伝わった稲作の技術を広めるための儀式的道具として作られた | 4. 食料を保存したり、煮炊きを行ったりするための日常的な容器として作られた |
|----------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|--|

問8 青森県にある三内丸山遺跡の特徴を説明した新聞記事において、この遺跡が「縄文時代の生活観を大きく変えた」とされる理由として、当時の人々の暮らしの様子を正しく説明しているものはどれか。（2025年 北海道公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。 | 2. 打製石器を用いてナウマン象やヘラジカなどの大型動物を追いながら、移動生活を繰り返していた。 | 3. 本格的な稲作が始まり、食料を蓄えるための高床倉庫や、周囲を堀で囲んだ環濠集落が形成された。 | 4. 青銅器や鉄器などの金属器が普及し、身分の差が生まれるとともに大規模なクニ同士の争いが起きた。 |
|--|--|--|---|

問9 青森県にある三内丸山遺跡の調査によって明らかになった、縄文時代の人々の生活や社会の様子として最も適切な説明を選びなさい。（2023年

徳島県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. クリなどの植物を栽培したり、遠方の地域と黒曜石やヒスイを交易したりして、長期間の定住生活を送っていた。 | 2. 金属器を用いた農耕が普及し、王の権威を示すために巨大な前方後円墳を築造する社会を形成していた。 | 3. 大陸から伝わった稲作を基盤とし、集落の周囲に深い堀を巡らせて外敵の侵入を防ぐ生活を送っていた。 | 4. ナウマンゾウやヘラジカなどの大型動物を狩るため、特定の拠点を持たずに獲物を追って移動を繰り返していた。 |
|--|--|--|--|

問10 青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。（2025年

北海道公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|-----------|-----------|---------|
| 1. 登呂遺跡 | 2. 三内丸山遺跡 | 3. 吉野ヶ里遺跡 | 4. 岩宿遺跡 |
|---------|-----------|-----------|---------|

問11 縄文時代の人々は、竪穴住居に住み、狩りや漁、採集を行って生活していました。こうした生活の中で、食べた後の貝殻や動物の骨、役目を終えた石器や土器などが一定の場所に積み重なって形成された、当時の生活を知るための重要な考古学的資料となる遺跡を何と呼びますか。（2018年 香川県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|----------|-------|---------|
| 1. 貝塚 | 2. 高地性集落 | 3. 古墳 | 4. 環濠集落 |
|-------|----------|-------|---------|

問12 縄文時代の人々が、食物の豊作や子孫の繁栄、あるいは病気や怪我の治癒などを願うための信仰として用いた、女性をかたどった土製の像を何と呼びますか。（2023年 香川県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 土偶 | 2. 埴輪 | 3. 銅鐸 | 4. 石包丁 |
|-------|-------|-------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 北海道や千島列島などを主な居住範囲とし、シリエトク（知床）などの地名の由来にもなっている独自の言語を持つ。	アイヌの人々は北海道、樺太、千島列島といった北方の地域を生活圏としてきた先住民族です。彼らは文字を持たない独自の言語を口承で伝えてきましたが、その痕跡は現代でも多くの地名の中に残されています。一方、選択肢にある琉球民族は南西諸島、渡来人は古代の技術伝達、蝦夷は主に東北地方の人々を指す言葉であり、地域や歴史的背景が異なります。
問2	答え 1 食べた後の貝殻や骨、破損した土器などが堆積しているため、当時の人々の食生活や利用していた道具の種類を具体的に知ることができるから。	貝塚は単なる「ゴミ捨て場」ではなく、何層にもわたって当時の生活の痕跡が積み重なったタイムカプセルのような役割を果たしています。出土する骨の種類から、季節ごとの狩猟・採集活動の様子を分析することができ、縄文時代の人々が自然のサイクルに合わせて豊かに暮らしていた背景を裏付ける資料となっています。
問3	答え 4 床を地面より低くすることで、室内の温度を一定に保ちやすくするため	竪穴住居は地面を掘り下げること、外気の影響を受けにくくし、冬の防寒対策としての機能を備えていました。住居の中央には「炉（ろ）」が作られ、暖房や調理に使われていました。選択肢にある「床を高くして湿気を防ぐ」構造は高床倉庫の特徴であり、穀物の保存を目的としたものです。
問4	答え 4 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。	縄文時代は地球の温暖化に伴い、木の実などの植物性食料や魚介類が安定して得られるようになりました。これにより人々は竪穴住居を作って定住するようになり、硬い木の実を煮てアクを抜いたり、煮炊きをしりするための道具として土器が重要な役割を果たすようになりました。選択肢にある稲作の普及や薄手の土器（弥生土器）は、その後の弥生時代の特徴です。
問5	答え 4 自然の脅威や病気に対して、超自然的な力による解決や生命力の向上を祈る必要があったため。	縄文時代は自然の産物に依存した生活を送っていたため、気候変動による食料不足や病気は死に直結する大きな脅威でした。科学的な知識が限られていた当時、人々は「祈り」を通じてこれらの問題を解決しようとしていました。そのため、女性の生命力を象徴する土偶などを通じて、食物が豊かになること（豊穡）や、部族の繁栄を願う呪術が発達したと考えられています。
問6	答え 3 土偶 ― 豊かな収穫や安産を祈るため	縄文時代には、女性の姿を象った土偶が数多く作られました。これらは、自然の恵みによる豊かな収穫や、新しい命の誕生（安産）を願う呪術的な道具として使われたと考えられています。選択肢にある埴輪は古墳時代、銅鐸は主に弥生時代に関連する遺物であり、時代や目的が異なります。
問7	答え 1 豊かな収穫や安産などを祈るための、信仰の道具として作られた	土偶は縄文時代を代表する土製品であり、その多くは女性を模して作られています。当時の人々は、自然界のあらゆるものに精霊が宿ると信じており、食料となる植物や動物の豊作、あるいは子孫繁栄や安産を願うための信仰の対象として土偶を用いていました。古墳時代に古墳の周囲に並べられた埴輪（はにわ）と混同しないよう注意が必要です。
問8	答え 1 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。	三内丸山遺跡は、縄文時代の人々が長期間にわたって安定した定住生活を営んでいたことを証明した遺跡である。稲作や環濠集落、金属器の使用は弥生時代の特徴であり、吉野ヶ里遺跡などに代表される。また、大型動物を追う移動生活は旧石器時代の特徴であるため、縄文時代の定住生活という特徴を正確に捉える必要がある。
問9	答え 1 クリなどの植物を栽培したり、遠方の地域と黒曜石やヒスイを交易したりして、長期間の定住生活を送っていた。	三内丸山遺跡では、大型の掘立柱建物や膨大な量の土器が見つかっており、縄文時代の人々が同じ場所に定住して高度な社会を築いていたことが判明しました。クリの栽培や、北海道・新潟など遠隔地との交易の証拠も見つかっており、従来の「狩猟採集のみで移動を繰り返す」という縄文時代のイメージを大きく覆しました。稲作や環濠集落は弥生時代、前方後円墳は古墳時代、大型動物の追跡は旧石器時代の特徴です。
問10	答え 2 三内丸山遺跡	青森県で発見された三内丸山遺跡は、縄文時代における最大級の集落跡であり、当時の人々が一定の場所に長期間とどまる「定住」を行っていたことを示す重要な遺跡である。佐賀県にある弥生時代の吉野ヶ里遺跡と混同されやすいが、時代背景と地域（青森）を区別して理解することが重要である。
問11	答え 1 貝塚	縄文時代に見られるこの遺跡は、当時の人々が食べ残したカスや壊れた道具を捨てた場所が堆積してできたものです。貝殻に含まれるカルシウム成分の影響で、本来なら土中で分解されやすい魚や獣の骨が保存されやすいため、当時の食生活や自然環境を解明するための貴重な手がかりとなります。
問12	答え 1 土偶	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムを信じていました。この時代に作られた土製の人形は、多くの場合、乳房や腹部が強調された女性の姿をしており、新しい生命の誕生や自然の再生、そして食物の豊作を願う呪術的な道具として使われたと考えられています。古墳時代に作られ、古墳の周囲に並べられた埴輪とは、時代も目的も異なる点に注意が必要です。